



TITLE:

一月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

一月の天象. 天界 1928, 9(94): 104-107

ISSUE DATE:

1928-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161364>

RIGHT:

一月の天象

太陽

月始めは磨羯宮に在り、21日から寶瓶宮に侵入する。

日	赤經	赤緯	星座	視直經	北極の傾	赤道の位置
1	18時44分	南23度4分	射手座	32.4秒	東へ3度	北へ3度
11	19 23	21 55	♏	32.4	西へ3	♏ 4
21	20 11	20 3	山羊	32.3	♏ 7	♏ 5
31	20 52	17 45	♏	32.3	♏ 12	♏ 6

「北極の傾」は太陽の北極(自轉軸の)が、見かけの北(太陽視中心と天の北極とを結んだ線)に対して傾ける角度であり、「赤道の位置」では太陽の赤道が、太陽視中心より何度北の方を通つてゐるかを示してゐる。

月

下弦	3日午前3時44分24秒	星座は獅子座	視直經は130分30秒
新月	11 午前9 28 12	射手座	29 46
上弦	19 午前0 15 6	羊座	30 51
満月	25 午後4 9 6	蟹座	32 48
遠日點通過	8日午前0時42分	蝸座	29 28
近日點通過	23 午後8 48	双子座	33 5

月は9日の朝、土星の傍を通り、12日に水星の南を通り抜け、15日の早朝には金星に追ひ附いて、17日は天王星に出合ひ、19日の早朝には木星と並んで、その南をくゞり抜け、22日の夕方火星と挨拶をし、27日に海王星にお目にかゝつて、今月の遊星歴訪を終る。

流星群

本月は月始め、特に1日—4日までが多い。輻射點は龍座と牧夫座との境界附近。其他オリオン座の星附近に輻射點を有するものも、此の頃に出る。月半ばに出る群は餘りないが、月末29日頃、牧夫座の星附近から、少し、出るかも知れない。

火 星

先月16日に最も地球に接近したのであるから、今月もまだ、さまで遠くへは去らず、且つ出現時刻が段々早くなつて、午後9時頃には既に南中する程なので、宵のうちに十分観測する事が出来る。今月も牡牛座 β 星の東南から逆行を續けて、19日には β 星の眞南2度の所を通り過ぎる。併し27日午後7時に留まなつて、それから、(もご來た方へ) 順行に移る。従つて2月始め(5日)に再び β 星の南を、今度は東に向つて通り過ぎる事が起る。火星・地球間の距離もぐんぐん大きくなつて行くから、月始め程觀望には都合がよい。

	赤經	赤緯	視直經	光度	距離	光達時間	經度
6日	5時33分	北26度46秒	14.8秒	負1.1等	0.632	5分18秒	282度
16日	5 24	26 38	13.7	0.8	0.686	5 42	211
26日	5 20	26 28	12.4	0.5	0.754	6 12	120

最後の三つの行の意味は去年十二月號と同じであるが、念の爲め簡単に註すれば距離とは、火星・地球間の距離を、太陽地球の距離を1とした尺度で表はしたもの。光達時間とは、其の距離を光が進むに要する時間。經度とは、各日附の午後9時に、火星面の中央に見える、火星の經度である。

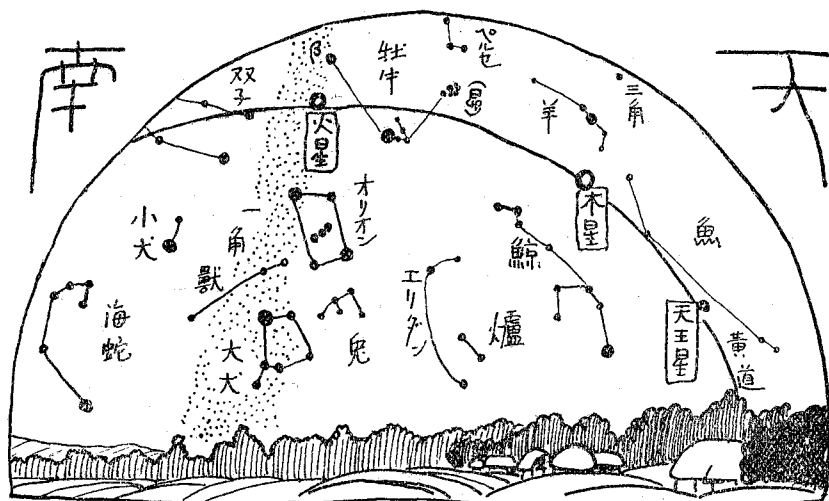
黄 道 光

今月位いから、二月三月頃にかけて、黄道光が見える。此れを見るには明るに市中等は全然駄目。地上の光が餘り明に入らない所で、空が清澄な處が必要である。時間は宵の7時頃、西空、水星、金星の在る附近を包んで、薄ほんやりこ舌状をした白光がそれである。

太陽系諸星の記號



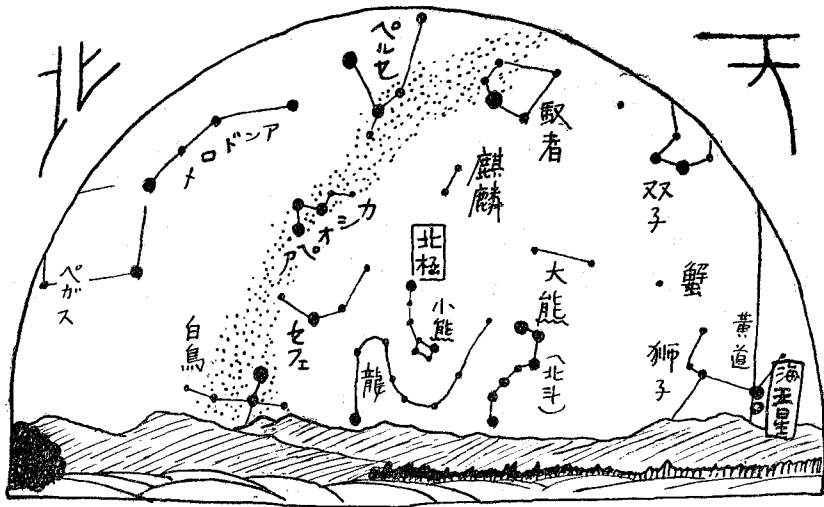
太陽 月 水星 金星 地球 火星 木星 土星 天王星 海王星



恒星界

一月の宵の空には、土星を除いた他の6大遊星が集まり、近年になり賑やかさである。恰も、御大典直後の目出度い正月を一家揃ふて祝ふのを真似て、斯く星々も集まつたかの様に、而も夫れ丈ではない冬の星座の一行がこれは毎年の事ながら、最もうるはしい装ひをこらして登場して来る。

先づ何んぞ云つても、オリオン、大犬、小犬は其の壯たるもの、牡牛の昴(プレアデス)は其の優たるものである。銀河は略南北に貫き此れに沿ふて白鳥、セフェア、カシオペア、ペルセウス、駭者、オリオン、一角獣、大犬、アルゴが並び、北斗も今後は見えて来る。



遊 星 界

水星は宵の星。23日午前0時に東方最大離角(18度半)となり、光度も最も強く(負1等)、視直経は月始め5秒であるが月末には9秒以上となり、20日頃は半月型を呈す。甚だ観望に適する。

金星も宵の星で、今後益々太陽より遠ざかるのこ、視直径が増加して月始め17秒だったのが月末には22秒となり、光度も負3.7等から負4.0になるのこ、観望には、月末になる程都合がよい。

地球は1日午後五時に遠日點を通過する。

火星は今月も尙、観望には都合よく、夕刻には既に東に高い。

木星も宵の星。(羊座にあり、)22日に上矩となり、次第に太陽に近附く、視直経38秒、光度負2等。

土星。肉眼で見える星では、此丈が曉の星。而も太陽に近く観望には適しない。

天王星 も宵の星。視直経3秒半。

海王星。午後9時頃東に登る。視直経2秒。